

自ら「よさ」を見いだし、追究していく鑑賞授業についての実践研究

－感じ取ったことと聴き取ったことの関わりを深める手立て－

Practical research on appreciation classes in which students discover and pursue "goodness" on their own
－ A means of deepening the relationship between what is felt and what is heard －

上代美樹*

Miki JOHDAI

河添達也**

Tatsuya KAWASOI

要旨

筆頭著者の勤務する島根大学教育学部附属義務教育学校の音楽科では、児童の感性に基づく思いを起点に、その思いを支える音楽を形づくっている要素を明らかにしながら学びを進めることで、見方・考え方を働かせ、追究をより豊かにする児童の育成を目指している。本研究では、鑑賞の学習において児童が自らの思いを起点に追究し、感じたことと音楽を形づくっている要素とをつながながら「よさ」を実感できる学習過程を構想し、その成果と課題について省察を行う。

〔キーワード〕 小学校音楽科、鑑賞、「よさ」の追究、見方・考え方

I 研究の背景

小学校学習指導要領（平成29年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示され、「見方・考え方」という新たな視点が提示された。深い学びの鍵となる、この「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。¹⁾と明記されている。さらに、「見方・考え方」が各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであるとされ、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、「児童生徒が学習や人生において、「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。」²⁾と示されている。

そこで、音楽科の「見方・考え方」である「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連づけること」に着目し、授業実践を行ってきた。本稿では、その中から児童自らが、自己のイメージや感情と音楽を形づくっている要素とその働きを関連付けることで、感性を働かせ、資質・能力の育成を目指した「鑑賞」の授業を取り上げ、その成果と課題について考察する。

*島根大学教育学部義務教育学校

**島根大学学術研究院教育学系

II 研究の目的・方法

本研究では、児童自らが、自己のイメージや感情と、音楽を形づくっている要素とその働きを関連付けることのできる授業展開の構築を目的とする。授業実践を行う島根大学教育学部附属義務教育学校では、令和5年度の研究主題を「新しい自分を創る」と定め、その意図を「子どもが自ら発見したり設定したりした課題を探究するために、思いや願いをもち、これまでの経験や既習、新たに獲得した知識・技能を学び合うなかで、子ども自身が自分の思考の変容を見つめ、自己理解、他者意識、社会参画の視点から学びを捉え直し、新たな価値観を創り出す学習活動を展開していく」と述べている。このことから、自らの感性に基づいて「よさ」を追究、実感し、この基盤に立って、さらなる追究を自分自身で創り出していく子どもの姿や学びを目指したい。

これらの研究目的に沿って、第6学年の鑑賞の音楽科授業実践を行う。年度の前期に「木星」を、後期に「ハンガリー舞曲 第5番」を教材とした2つの題材を設定し、各々の考察と両者の比較、検証を行う。これらを通して、児童の学びに対する変容を省察し、本研究の成果と課題について考察する。

III 授業実践

1. 第6学年における鑑賞、「木星」の授業実践

(1) 授業の概要

○授業者：上代美樹

○授業対象：島根大学教育学部附属義務教育学校第6学年

○授業期間：令和5年

○題材名：「いろいろな楽器のひびきを味わおう」～「木星」(ホルスト作曲)～

○題材の目標：曲想とその変化の特徴、楽器の音色や組み合わせ、旋律のくり返しなどのかかり合いから、曲の良さなど自分の感じたことや考えたことを伝え合いながら、曲全体を味わって聴く。

○題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、音楽を味わって聴いている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

○展開計画 (全2時間)

- 1) 自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、感じたことを伝え合い、曲全体を味わって聴く。(評価：思考・判断・表現)
- 2) オーケストラの楽器の音色や曲の構成を知り、曲の特徴をとらえる。(評価：知識・技能、主体的に学習に取り組む態度)

○指導案³⁾

題材名 いろいろな音のひびきを味わおう ～「木星」(ホルスト作曲)～

本時の学習 (1 / 2時間)

目標

自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を味わって聴くことができる。

展開

学習活動と予想される子どもの取組	教師の支援と評価
<p>1. 常時活動</p> <p>2. G.ホルスト作曲「木星」について知る。</p> <p>3. 曲を聴いて感じたことを発表する。 ・やさしい感じがした。 ・迫力がある。</p> <p>4. めあてを確認する。</p>	<p>・既習曲「明日という大空」を歌い、音楽に向かう気持ちを高める。</p> <p>・曲について簡単な説明をし、イメージをもって聴くことができるようにする。</p> <p>・曲を聴いて最初に感じた気持ちを大切にしながら授業を進めていくために、感想を発表する時間をとる。(中間部分だけを聴く。)</p>
<p>「こんなときにおすすめ！」を伝えよう。</p>	
<p>5. どんなときに「おすすめ」なのかと、その理由を伝える。</p> <p>元気になる時におすすめ ・はじめは、激しく演奏されているけれど、 □になると、心が落ちつく。その後、また激しくなるので、元気が出てくる。</p> <p>泣きたい時におすすめ ・迫力のある□に穏やかな□が挟まれていることで、心が揺さぶられる。</p> <p>心を落ち着かせたい時におすすめ ・□は、ほとんど弦楽器だけで演奏されているから、弦楽器の音色がよく響き、とてもきれいで穏やかな気持ちになれる。</p>	<p>・曲全部を聴く前に「どんなときに聴きたくなるのか、おすすめするのかを考えてみよう。」と投げかけることで、視点をもって聴くことができるようにする。</p> <p>・自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、曲や演奏のよさなどについて考えをもてるように、「おすすめを伝える」という活動を行う。</p> <p>・曲全体を感じ取って聴くことができるように、子どもたちそれぞれの自分なりの気持ちを伝え合い、曲全体に意識が向くようにする。</p>
<p>6. ふりかえりをする。</p> <p>・強弱や音の重なりがあるから、迫力が出るのが分かりました。</p> <p>・自分の感じたことには、曲の中に理由があることが分かって面白かったです。</p> <p>・弦楽器の音色を聴くと、落ち着く気持ちになる人が多いんだなあと感じました。</p>	<p>評価【思考・判断・表現】</p> <p>自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を味わって聴いている。 (発言・ワークシート)</p> <p>・本時で出た少数の要素も取り上げることで、次時の学習の時に意識が向くようにする。</p>

○問いの工夫「こんなときにおすすめ」を考える

児童が曲全体に意識を向け、曲全体を味わって聴くことができるように、めあてを『「こんなときにおすすめ！」を伝えよう』と定めた。他者に「おすすめ」するには、曲全体を集中して聴取し、自分で感じ取った曲の「よさ」を、根拠をもって伝える必要がある。さらに、「どんなとき」に聴くことを薦めるのかと焦点を絞ることによって、なぜその時なのかという根拠も必要となる。そのようにすることで、感じたこととその根拠にあたる音楽を形づくっている要素を無理なく結びつけて考えることができ、見方・考え方を自然と働かせ、思考を深めることができる考えた。

本題材は、全2時間構成の授業であるが、思考力、判断力、表現力等に関する資質・能力に焦点を当てた授業内容を1時間目に設定し、通常1時間目に設定されることの多い知識に関する資質・能力の学習はその後に配置した。このように展開することで、児童が学習の初期に抱いた曲の印象を起点として、曲のよさを、一層深く味わいながら見いだすことができるのではないかと考えた。もちろん、児童自らが創出した「おすすめ」については、クラス全体で伝え合う活動も取り入れ、実感を伴う学びとなるよう企図した。

(2) 授業の考察

授業の導入では、木星についての簡単な説明（オーケストラで演奏されていること、4つの部分〔ア・イ・ア・終わり〕から構成されていること、作曲者について）を行い、最初に曲の中間部である「イ」の部分の部分を少しだけ聴いた。「イ」の部分は、この曲が一般に広く知られるようになった有名な旋律を持つ箇所であり、この部分から聴くことで、曲に対する興味・関心を引き出すねらいがある。実際に、「イ」の部分は多くの児童が聴いた経験があったため、曲を流した瞬間に、「あ、この曲か」と、閃くような目の輝きが見受けられ、曲に対する興味・関心や授業に対する意欲を高めることができたと考える。その後、冒頭から全曲を通して聴き、ワークシートに自分の考えをまとめていった。以下、児童のワークシートを一部掲載する。

こんなときにおすすめ

体育会	ときにおすすめ
理由	
元気があって、ほくほくがある。力強いので、体育会の時に おすすめかなと思います。元気をもらえるような うなうなうなうなとおもいます。 中はは、かいかいしきなどのときにおすすめです。	

こんなときにおすすめ

ぼうけんしたい	ときにおすすめ
理由	
ほくほくがあって、弱いところは音が小さくなって、強いところはも どほくほくが出ていたので、ジャングルみたいな感じでワクワクしたからで す。	

こんなときにおすすめ

盛り上がりしたい	ときにおすすめ
理由	
最初からほくほくがあって、ワクワクした気持ちになれ たし、強弱があるし、聞く楽しくなるからです。 アとイで、曲の心強い感じがあって、どっちも楽しめる からです。	

こんなときにおすすめ

アイスクリームを落とした	ときにおすすめ
理由	
高低差があって、小さな悲しみが表れていると 思ったから。 ①のゆっくり進む感じがアイスクリームを落と した時に似ていると思ったから	

こんなときにおすすめ

①=ねる前	ときにおすすめ
理由	
アとはらが、落ちついている。それに、リズムがおそい ので、ぐっすりとした感じだったので、①では ねる前かと思いました。	

こんなときにおすすめ

リラックスしたい	ときにおすすめ
理由	
①テンポがゆっくりしていて、高音よりも低音の方が 長くてリラックスできる。音低やサビの部分からリラク クスな感じだから。	

これらのワークシートからは、児童が自然に、曲のよさについて「感じたこと」と「音楽を形づくっている要素」をつなげ、聴取している様子を読み取ることができる。自分の「おすすめ」を他者に伝えることや、「どんなときに」とおすすめの場面を焦点化したことで、自分が感じ取った曲の良さを、根拠を見いだしながら味わい、学びを深めている様子がかがえた。また、他の児童から様々なおすすめの場面が紹介されることで、自分にはない感覚に触れることができ、とても楽しそうな様子であった。このことは、本校の研究主題の目的にある「他者意識」を深めることにもつながったと考えられる。鑑賞の学習の際になかなか自分の意見を述べにくい児童に対しては、まず、おすすめの場面を選び、その後、「なぜそう思ったのか」という逆方向の思考を促すよう支援した。これにより、自分自身の考えが整理しやすくなり、他者に「おすすめ」の部分をしっかり伝えることができている。ワークシートの中には、「ア」か「イ」のどちらかのみのおすすめを書いている児童が複数いたが、その場合でも、「アとは違い…」や「イと比べてアは…」というように、比較しながら聴くことができている児童もいた。しかし、印象の強い「イ」のみについておすすめを書いている児童もいたため、部分的に聴いている児童に対する新たな手立てが必要であると感じた。

このように、本校の研究主題にある「子ども自身が自分の思考の変容を見つめ、自己理解、他者意識、社会参画の視点から学びを捉え直す」ことについて、一定程度の学びができていたと考えられる。

2. 第6学年における鑑賞、「ハンガリー舞曲 第5番」の授業実践

(1) 授業の概要

- 授業者：上代美樹
- 授業対象：島根大学教育学部附属義務教育学校第6学年
- 授業期間：令和6年
- 題材名：「曲想の変化を味わおう」～ハンガリー舞曲 第5番（ブラームス作曲）～
- 題材の目標：
 - 1) 曲想及びその変化と速度、旋律、強弱、反復、変化などとの関わりについて理解する。
 - 2) 旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴く。
 - 3) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽経験を通して生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

○題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想及びその変化と速度、旋律、強弱、反復、変化などとの関わりについて理解している。	旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

○展開計画（全2時間）

- 1) 「ハンガリー舞曲 第5番」を聴き、感じたことと気づきを発表し、音楽を形づくっている主な要素について共有する。（評価：知識・技能）
- 2) グループで話し合った音楽を形づくっている要素について意見を交流し、曲想の変化を味わいながら聴く。（評価：思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）

○指導案⁴⁾

題材名 曲想の変化を味わおう～ハンガリー舞曲 第5番（ブラームス作曲）～

本時の学習（2／2時間）

目標

着目した要素を中心に曲を聴き深めたり、他のグループとの音楽を聴く視点の交流を通したりして、曲のよさや面白さを見いだし、曲全体を味わって聴く。

展開

主な学習場面と子どもの反応	教師の支援と評価
1. 「曲を聴く視点」を意識して、J.ブラームス作曲「ハンガリー舞曲 第5番」を聴く。 ・旋律のくり返しがたくさんあるから、もっと詳しく知りたい。 ・多くの特徴を整理したら、曲の構造が分かってすごく面白そうだな。	・前時で出てきた「聴く視点」を確認してから曲を聴くことで、要素に注目して聴くことができるようにする。 ・事前にグループ分けを伝えておくことで、円滑にグループ活動に入ることができるようにする。
2. めあてを確認する。	
聴く視点を手がかりにして、解説書にのせるよさや面白さを集めよう	
3. グループで「曲を聴く視点」をもとに、曲のよさについて話し合う。 ・4つの旋律のくり返しがあることで、最後までわくわくしながら聴くことができると思う。 ・強弱の変化が激しいから、急に惹きつけられるところがよさだと思う。 ・短調→長調→短調になることで、曲のまとまりが出てくる。 ・速さが急にゆっくりになったり、最後は急に速くなって終わったりするところに面白さがある。	・気づきを書き込むホワイトボードを用意し、グループでの考えをまとめることができるようにする。付箋も必要に応じて使えるように用意する。 ・話し合いの一助となるように、PC端末で音源が聴けるようにする。 ・速さや強弱などを視覚的にも捉えることができるようにタイムバーと音源が一体になったものを準備する。
4. グループで話し合ったことを発表する。 ・強弱と速さの変化が似ていて面白いと思った。 ・この曲のよさは、旋律にあると感じていたけれど、友達の発表を聞いて、速さの変化も面白いところだと思った。 ・調の変化は難しいと思ったけど、友達の説明を聞いてよく分かった。	<p>【評価（思考・判断・表現）】</p> 旋律の反復、速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 （PC 端末、観察、発言）
5. 曲全体を味わいながら聴く。	・曲全体の構造を確認できるように、各グループの考えを曲の流れに合わせて板書をする。
6. ふりかえりをする。 ・1つの視点に絞って聴くことで、その他の様々な視点に興味をわいた。ハンガリー舞曲 第5番の面白さは1つではなく、様々な要素が集まって、人を惹きつける曲になっていることが分かった。	<p>【評価（主体的に学習に取り組む態度）】</p> 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （PC 端末、観察、発言）
	・解説書作りは家庭学習等で行い、PC 端末か紙面で作成することを伝える。

○自分にとっての「曲を聴く視点」を決める

第6学年後期の鑑賞学習であるため、これまでの学びを生かして、曲の特徴を自ら見いだし、それを探究の過程の中でさらに聴き深めてほしいと考えた。1時間目に曲を聴いた際に、音楽を形づくっている主な要素を一人ひとりが見いだし、自分で「曲を聴く視点」（音楽を形づくっている要素）を決める。この自ら見いだした視点を基に、2時間目でさらに曲を聴き深めていくことができるように、同じ視点の児童でグループを作り、感じたことや気付いたことを伝え合う場を設定する。その後、クラス全体で他の要素に着目したグループの意見も聴き合い、新たな気付きや自分の聴く視点との関連にも気付くことができるようにする。

(2) 授業の考察

1時間目では、曲を聴き、感じたことや気付いたことをジャムボードに一人ひとりがまとめていった。(図1) ジャムボードでは付箋の色を指定し、黄色は感じたこと、青は気付いたこと、ピンクは自分の聴く視点を、それぞれ記述するようにした。書くことに困難さのある児童や文章にまとめるのが苦手な児童も、ジャムボードを活用することで自分の考えを書き出しやすくなっていた。また、何度も上書きをしながら、自分なりのまとめ方を見出している様子もうかがえた。感じたこと(黄色)と気付いたこと(青色)について、児童個別の考えを聞き出し、学級全体で共有した後に、ピンクの付箋に自分にとっての「聴く視点」を書き出した。教師が聴取時の要素を絞り、その要素に着目して授業を展開していくのではなく、「曲を聴く視点」を児童自身が決めることによって、より自分にとっての「よさ」を追究し、主体的に授業に臨む様子が見受けられた。児童が選んだ要素は「強弱」「速度」「旋律」がほとんどであり、少数意見として、「調の変化」「音色」が挙げられていた。

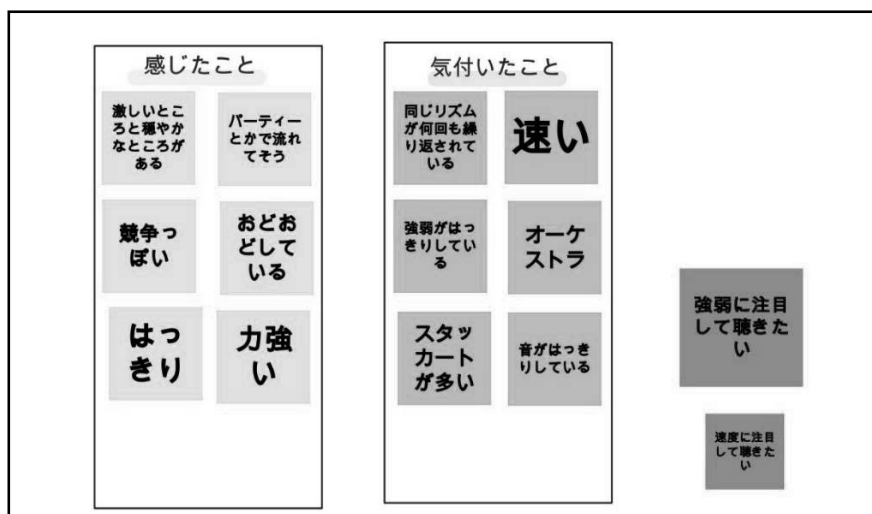


図1 考えをまとめたジャムボード

2時間目では、児童の見出した「聴く視点」から、「強弱A」「強弱B」「速度A」「速度B」「旋律」の5つのグループを作り、学習を展開した。グループ内で曲のよさについて話し合う活動では、PC 端末クラスルーム内の楽曲音源データに、音源と旋律の変化を可視化できる楽曲同期仕様のタイムバーを嵌め込んでおき、児童が視聴する際、楽曲のどの部分を聴いているのか視覚的にも認知できるようにしておいた。

グループ活動では、これらの情報データや、前時に作成したジャムボードの記述を随時参照しながら、それぞれの視点に注目して何度も曲を聴き、気付いたことを伝え合ってホワイトボードにまとめていった。以下に、「強弱B」および「速度A」の2つのグループの考えをまとめた、それぞれのホワイトボード記述を掲載する。(図2)(図3)

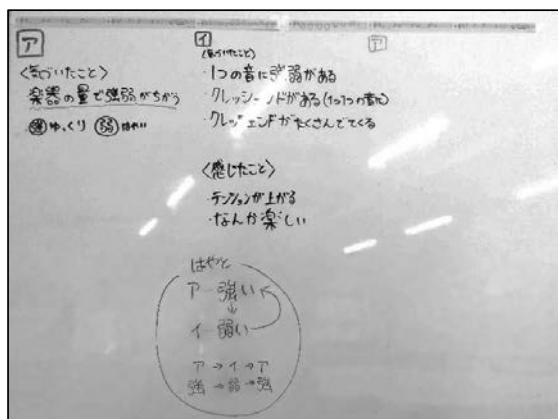


図2 強弱Bのホワイトボード

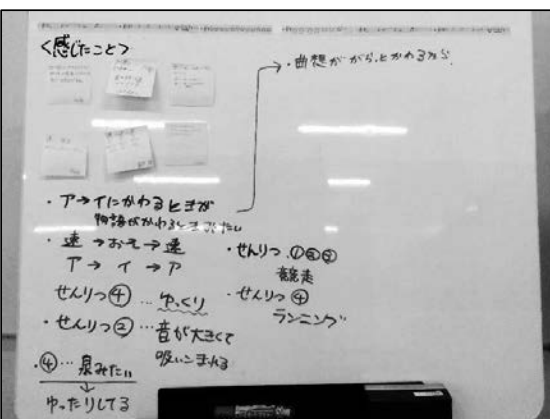


図3 速度Aのホワイトボード

このグループ活動では、曲全体を見通して話し合い、様々な意見が出ていた。感じたことと気付いたことを結び付けながら曲を聴き深めていたが、多くのグループで気付いたことについての意見交換に終始し、感じたことから意識が離れている様子も見られた。鑑賞学習においては、グループで考えをまとめる活動は初めてであったため、グループ活動の前に、話し合いの仕方や感じたことやよさにも注目するよう、教師が適切に声がけをする必要があったと考える。

ただ、2時間の学習全体を通してみると、当初の目標である「着目した要素を中心に曲を聴き深めたり、他のグループとの音楽を聴く視点の交流を通したりして、曲のよさや面白さを見だし、曲全体を味わって聴く。」については、一定程度の成果があったと考える。例えば、授業後の児童の振り返りの記述からは、グループ活動によって、より繊細な聴き方を習得したことや、他のグループの意見を共感をもって受容する姿勢など、児童の姿に1時間目からの発展的変容が見受けられた。自らの感性に基づいて、「よさ」を追究し、自分だけではなく、他者と協働することで、より深く思考し、「よさ」を実感することにつながったと考える。以下、児童の本時の振り返りの記述を一部抽出して掲載する。

- ・「ハンガリー舞曲の強弱のことを考えて、強弱に注目して聴いてみると、全部フォルテじゃないことが分かりました。」
- ・「今日は、ハンガリー舞曲の『強弱』について分析してみて、他にも『速度』や『音色』などのいろんな人の意見が聞けたので、次の解説書につなげていきたいです。」
- ・「今日、ハンガリー舞曲の気付いたことや感じたことをグループで出し合って、自分だけでは全く思いつかないこともグループの人たちでやったら、すごくたくさん出ました。旋律も細かく表すことができてよかったです。」
- ・「ハンガリー舞曲を詳しく聴いてみて、詳しく聴くことによって小さな変化にも気付くことができましたし、他のグループの意見も聞くことができたので良かったです。解説書作りでは、他のグループの気付いたことも取り入れて良い解説書を作りたいです。」
- ・「ハンガリー舞曲を聴いて、人それぞれ考えたことや気付いたことが違って、いろいろなことを考えていて面白かったです。そして、ハンガリー舞曲を聴いているとなんだかテンションが上がります。」

また、本題材では、同じ視点をもつグループと、違う視点から学びを深めた他のグループの意見も取り入れ、児童が自分なりの「ハンガリー舞曲解説書」を作成することを、学習のゴールに定めた。解説書の作成を通して、自己の学びの内容や変容を再確認でき、それらが他者に伝わるよう適切な言語化を行うことで、教科での学びの定着をより着実に実現できると考えたからである。以下、実際に児童が作成した解説書を2例取り上げたが、この事例からも、感じたことと気付いたことを有機的に関連付け、曲のよさを見だして曲全体を味わって聴いている様子が見て取れることから、本題材の目標は一定程度達成できていると考えられる。

ハンガリー舞曲解説書

～はじめに～

私はハンガリー舞曲の速度・強弱・旋律が曲想とどのように繋がっているのかに注意して聞きました。あくまで個人の感想です。ハンガリー舞曲を聞く時に意識してもらえると嬉しいです。



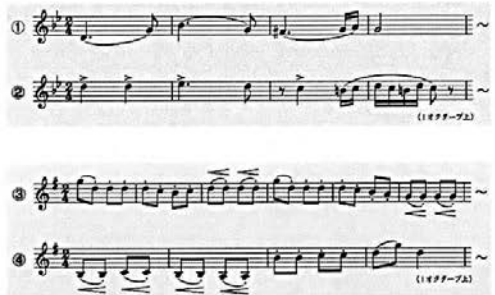
～ハンガリー舞曲について～

ヨハネス・ブラームスがハンガリーのジプシー（ロマ）音楽に基づいて編曲した舞曲集です。オーケストラでの演奏が広く知られていますが、最初はピアノの連弾のために書かれ、爆発的な人気を博しました。

～ハンガリー舞曲の曲想～

ハンガリー舞曲の音色は右の画像のように大きく三つに分かれています。この曲は始めと終わりが同じ音色で書かれています。始めと終わり⑦（ピンク）は、なめらか・明るい雰囲気があります。一方、半ば④（水色）は、⑦に比べて存在感が薄いように感じます。

なぜ⑦から④に向けて物語が変わるように感じるのかは全て「速度・強弱・旋律」に関係しています。



～ハンガリー舞曲の特徴～

ハンガリー舞曲は「速度・強弱・旋律」で成り立っています。

まず速度について説明します。速度は曲想によって工夫が違います。

⑦より④の方がテンポが遅いです。テンポが遅いことでゆったりした雰囲気に聞こえます。

次に強弱について説明します。強弱は一つ一つの音に工夫があります。

⑦は④に比べて音が大きいので迫力が出て、吸い込まれるような感じがしませんか。良く聞いてみると、音が大きいときには楽器がより多くなっています。楽器の使い方にも工夫がありました。

次に旋律について説明します。旋律は4つのグループに分かれています。

まず右の画像の①②は音の大きさは似ているのですが、①は一つの音を伸ばしている＝ゆっくりした雰囲気

②は一つ一つの音がはっきりしている・リズムが細かい＝変化が分かりやすいと、⑦でも違った変化が楽しめますね。③④も音の大きさは似ています。ですが、③はテンポが速くて音が多い＝急いでいる、④はテンポが遅速している＝変化が分かりやすいという違いがあります。

他にもハンガリー舞曲には一音一音によく考えられた工夫が込められています。

～ハンガリー舞曲の魅力・まとめ～

私がハンガリー舞曲をはじめて聞いた時、まず最初に感じたのは「音の勢い＝強弱」です。

急に始まる勢いの強さや、半ば④の⑦とはまた違った音色などが自分が思う、ハンガリー舞曲の魅力です。

音楽の楽しさはやはり見て感じられない所だと思います。なので、想像も無限大です。

ハンガリー舞曲以外にも世界には素晴らしい音楽がたくさんあります。みなさんも色々な音楽に出会って、他の曲にはないこの曲にしかない良さをぜひ感じてみてください。

ハンガリー舞曲の魅力

☆はじめに

私は、ハンガリー舞曲について解説書を考えました。皆さんにハンガリー舞曲の魅力が伝わるといいです。

☆ハンガリー舞曲の魅力

〈簡単な説明〉

ハンガリー舞曲は、旋律4まであります。旋律4が終わると、また旋律1,2が繰り返されて終わりです。

〈音楽面〉

私は、ハンガリー舞曲の「速さ」と「強弱」に注目しました。旋律1は最初からオドオドしていて怖い感じです。旋律2は、明るくて強弱が激しいです。旋律3は、楽しい感じで、一音一音が細かくてスタッカートになってるので、私はここが一番のお気に入りです。最後の旋律4は、クレッシェンドがあって、遅くてゆったりした感じです。

〈曲の見方を変える〉

皆さんは、こういう音楽を聞くと、「曲を聞くのつまらない」「面白くない」などと思ったことはありませんか？私は、あります。でも、音楽を聞くというのは、音楽的に見るだけではなくて、面白く見ることもできます。例えば、私はこの音楽を聞いて、「トムとジェリー」を思い浮かべました。トムとジェリーは、基本追いかけてっこをしていて、見ていると、ハラハラ・ドキドキしませんか。なんでハラハラ・ドキドキするんだろうと考えてみると、「テンポが早かったり、強弱があるからだ！」と音楽的なことも出てきます。こうして、曲の見方を変えると、音楽を楽しむことができます。

☆まとめ

皆さんは、ハンガリー舞曲をきいてみたくありませんか。音楽は、音楽的に見たり、おもしろ面白く見たりすることができます。それに、自分の好きな旋律を見つけてみてもいいかもしれません。好きな旋律を見つけると、曲を聞くのも楽しくなると思います。みなさんもぜひ、ハンガリー舞曲をきいてみてください。

IV まとめ

本研究では、鑑賞の学習において児童が自らの思いを起点に追究し、感じたことと音楽を形づくっている要素とをつなげながら「よさ」を実感できる学習過程を構想し、その成果と課題を明らかにした。

第6学年前期の「木星」を題材とする鑑賞授業では、児童が曲のよさについて、「感じたこと」と「音楽を形づくっている要素」を有機的につなげ、聴取することができた。また、自分の「おすすめ」を他者に伝えることや、「どんなときに」とおすすめの場面を焦点化したことで、自分が感じ取った曲のよさを、根拠を見いだしながら味わい、学びを深めている様子が見ええた。さらに、他の児童による異なる視点からのおすすめ場面が紹介されることで、自分にはない感覚に共感する場も提供できた。これらを通して、児童が音楽聴取への「見方・考え方」をより豊かに働かせ、自身の思考の変容を見つめながら、学びを捉え直している姿を見ることができた。

一方で、印象の強い中間部の旋律のみに着目する児童もおり、目標の1つであった「曲全体

を味わって聴く」ことが、十全に達成できたとは言えなかった。局所的に突出して有名な断片や旋律を有す曲においては、それ以外の部分の魅力をどのように気付かせるか、教師側の問いかけや情報提供に一層の工夫が必要だと感じた。例えば、各部分のリズムや旋律構造、和音などを比較し、どのような統一感や対比があるのか、またそれはなぜなのかを児童に投げかけることで、楽曲構成上の美しさや対比の必然性を見いだし、曲全体のよさを味わって聴くことができるようになるのではない。

この省察を基に、第6学年後期の「ハンガリー舞曲」を題材とする鑑賞授業では、4種の旋律と、速度・強弱・調性などの諸要素とを関係付けながら、曲全体の構成に着目できるよう、教材や問いかけの工夫を行った。その1つに、タイムバーの採用がある。PC 端末のクラスルーム内に取り込んだ楽曲音源データに、音源と旋律の変化を同期しながら可視化できるタイムバーを嵌め込むことで、児童が今、曲全体のどの部分を聴いているのか、俯瞰的に捉えられるようにした。曲全体のどのあたりに、4種の旋律がどのように配置され、それぞれ速度や強弱とどのように関連付けられているのかを、常に曲全体の構成を視野に入れながら聴きとることができるようにしたのである。また、曲の解説書を作るという学習目標の設定は、前期の学習における「自ら見いだした曲のおすすめ部分を他者に伝える」ことの、より発展的で汎用性を伴う一般化であり、必然的に曲全体を深く理解し、味わうことに繋がった。

前期に比して、後期の授業実践時には、児童の聴き取りの能力や感じ取りの感度の向上が見受けられ、自己理解を一般化して定着させることもできるようになってきていた。このような児童の変容、つまり成長に応じた課題設定を行おうと考え、「解説書」の仕様や様式を取って指定せず、どのような構成や内容にするのか、すべて児童の発案に任せることにした。その結果、自らの学びの履歴を反映した精緻な「解説書」が出来上がった。この「解説書」は、他者に向けた「ハンガリー舞曲の楽曲解説書」であるとともに、児童自身の学習成果報告書でもある。さらには、教師の授業実践の成果と課題を載せた評価書ともいえるのだと考えている。

今後も、児童が主体的に、自らの感性に基づいて「よさ」を追究、実感し、それを原動力に、次の追究を自分自身で創り出していく確かな姿を目指し、音楽科教育実践に係る不断の模索と省察を重ねていきたいと思っている。

謝辞

本研究を進めるにあたっては、島根県教育庁教育指導課調整監の小室淑子先生に、学習指導案の作成時や授業実践後の授業協議会において、学習指導要領の基礎に立ち返って貴重なご助言をいただいた。また、小村聡副校長にも同様に多くのご助言をいただいた。さらに、同僚である音楽科の竹下涼子、竹田瑞葵両教諭とは、日々多くの議論を重ね、互いに励ましあって研究と実践を重ねてきた。その他多くの関係者のご助力に心から感謝したい。最後に、常に高い集中力で授業に臨んでくれる児童の皆さんの存在がなければ、本研究実践を試みることは不可能であった。改めて全幅の謝意を表したい。

付記

本研究は、これまでの上代の実践研究の蓄積を基盤として、島根大学教育学部附属義務教育

学校の令和5年度研究主題に基づく、前期課程音楽科の授業実践をまとめたものである。共著者の河添は、研究全体の構想と授業成果の考察を行い、本論の最終的なまとめを分担した。

註)

- 1) 『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省(29年7月) p 4
- 2) 『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省(29年7月) p 4
- 3) 本稿では紙幅の都合で1/2時間の指導案のみを掲載する。
- 4) 本稿では紙幅の都合で2/2時間の指導案のみを掲載する。

引用・参考文献

- 1) 『小学校学習指導要領解説 音楽編』文部科学省(平成29年7月)
- 2) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽』文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター(令和2年6月)
- 3) 『よくわかる!音楽鑑賞の授業づくり 小学校・中学校』公益財団法人 音楽鑑賞振興財団(令和3年7月)
- 4) 『小学生の音楽6』教育芸術社
- 5) スコア『ハンガリー舞曲 第1番・第5番・第6番』日本楽譜出版社
- 6) CD 小学生の音楽6 観賞用CD
Disc 1 track ①~⑩木星(演奏:ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団, 指揮:ヘルベルト・フォン・カラヤン)
- 7) CD 小学生の音楽6 観賞用CD
Disc 1 track ⑬~⑰ハンガリー舞曲 第5番(演奏:ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団, 指揮:クラウディオ・アバド)